「児童の思考を促す教材開発による社会的な見方・考え方と価値判断力の育成」
～新学習指導要領を見据えて～

名前　　上田晋太朗

1　はじめに

「社会的な見方や考え方」については，新学習指導要領では社会科の目標の柱書部分で

「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追及したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指

としている。さらに，目標（３）には，

社会的事象について,よりよい社会を考え主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚,世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての

と示されている。新学習指導要領では，学習の中で知識・技能，思考力・判断力・表現力を培うだけでなく，主体的に問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考えようとする態度，そして「自覚」を養うことが求められている。

私は，このような様々な力，そして「自覚」や「態度」を育てるには，その土台として社会科学習に対する主体性や興味・関心・意欲を児童が持てるようになることが最も大切であると考えた。しかし，そのためには，学ぼうとしている題材が自分たちの生活や経験と少しでも関係していると感じられることが必要であり，そう感じられなければ児童の社会科の学習に取り組む主体性を育てることは難しくなると考えた。主体的に学ぶことができなければ，国民としての「自覚」を育むことも難しいのではないかと考える。

そこで私は，児童が身の周りの社会的事象に興味・関心を持ち，進んで関わることができるように教材開発を中心とした取り組みにより，児童が「社会科を好きになる」ことを目指し取り組んでいきたいと考えた。また，児童が主体的に学習に取り組むためには，教材の中に「社会的な見方・考え方」を働かせ,「自分事」として考えられることが大切であり，社会的事象について多角的に考え選択・判断していく活動を設定していくことが大切であると考えた。そのことが,「自覚」を持つことの第一歩であり,「社会的な見方・考え方」,「価値判断力」,「社会参画意識」,「公民的資質」など，社会科にまつわる様々な資質や能力，態度を培うことにつながるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

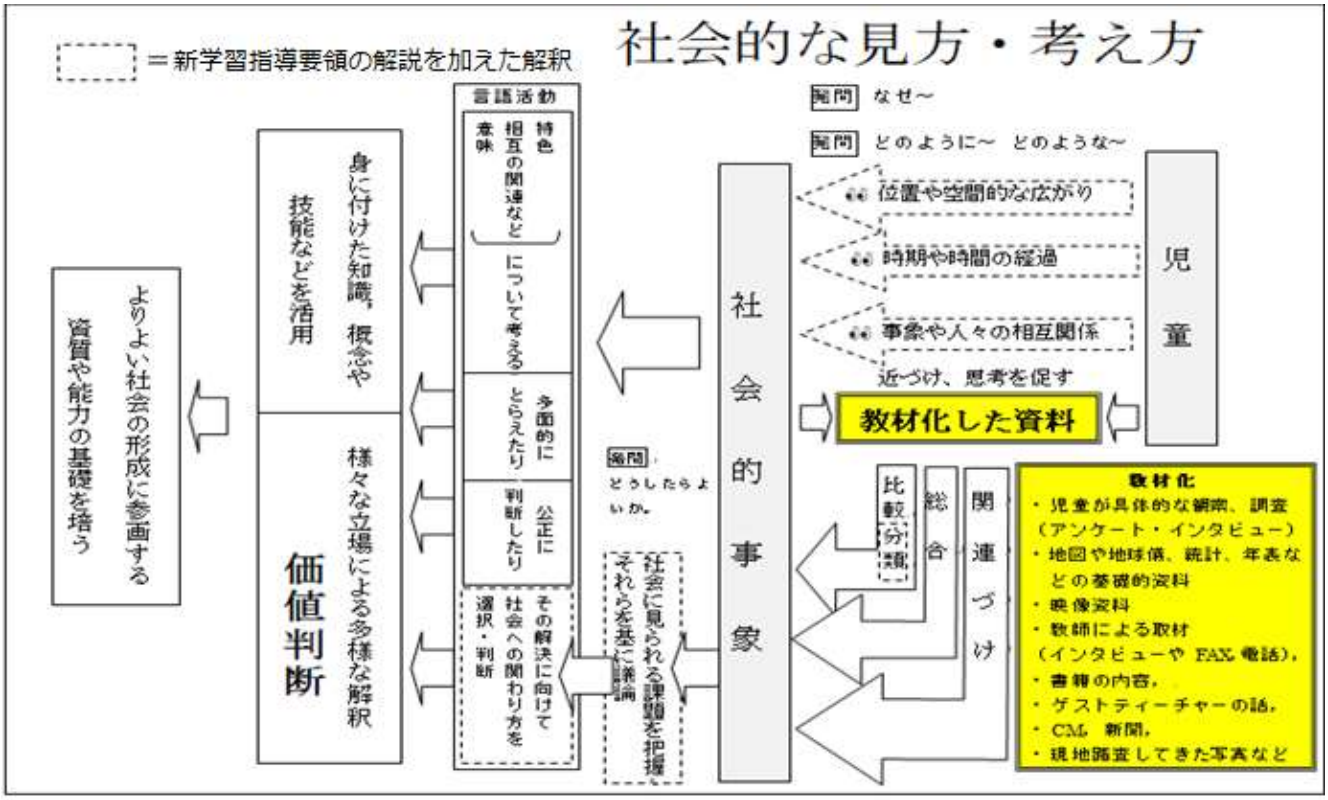
２　研究について

（１）研究構想図

「児童の思考を促す教材開発による社会的な見方・考え方と価値判断力の育成」
～新学習指導要領を見据えて～

研究仮説

教材開発により，児童の社会科への興味関心を喚起させることで，児童が社会的事象に進んで関わるのではないか。そして，社会的な見方・考え方や価値判断力




（２）研究テーマ設定の理由

①教材開発について

授業アンケート①の結果（P6）からもわかるように，年度のはじめ，本学級の児童は社会科に対する関心があまり高くなかった。その一方，農業や水産業の学習を通して，児童が自分たちと社会的事象との間につながりを感じれば，児童の社会科に対する学習意欲を高めることができると実感した。特に第５学年の学習では，教材化がうまくいかないと，産業，国土など，学習対象が広がるため，児童にとって遠い世界の話で終わってしまう。そのため，「自分事」として捉えられる教材の吟味や開発が不可欠である。地域教材を用いたり，児童が驚きや疑問に感じるような事象を教材化したりすることで，児童と社会的事象の距離が縮まり，児童の意欲を高めることができることを再認識した。地域教材を活用することがで，人々の思いに直接ふれられる。そのことが，社会科という教科の独自性であり，楽しさであると思う。楽しさが興味関心につながり，深い学びを実現する。そのため，本実践においても，社会的事象と児童との距離を縮め思考を促すために，教材開発に力を入

れたいと考えた。そして児童に疑問を持たせたりや思考をゆさぶったりすることができれば，児童にとって主体的な学びとなるのではないかと考えた。

②社会的な見方・考え方について

社会科は地図や統計資料などを用いて，児童に気づきや思考を促すことが多い。そのような基礎的資料を読み取る力を育成することは，社会科の大きなねらいであると考える。また，様々な資料を見比べたり，分類整理したりすることで共通点や差異を見つけ社会的事象についての新たな発見ができるようになる。

そのためには，どのような問いを児童に投げかけるかがとても大切になる。新学習指導要領では，「見方・考え方」を資質・能力を養うものとしてとらえるのではなく，（問いを通して）児童が「見方・考え方」を働かせるように工夫することを重視していることを意識して，問いを設定していけるようにしたい。さらに，社会的事象を「自分事」として捉えて関心を持てるようにし，児童が自然な流れの中で「社会的な見方・考え方」を働かせ，一人ひとりの「社会的な見方・考え方」が成長していく過程を大切にしていけるようにしたい。なお，現行学習指導要領では，

> （１）年の指導については，児童の発達段階の段階を考慮し社会的事象を公正に判断できるようにするとともに，個々の児童に社会的な見方や考え方が養われる

とあり，「社会的な見方や考え方」という表記を用いているが，次期指導要領では，「社会的な見方・考え方」と表記されている。本実践では「見方や考え方」と「見方・考え方」の解釈を比較し，指導要領改訂を見据え研究テーマを「見方・考え方」と表記する。

③価値判断力について

これからの社会科では，主体的に問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え，学習したことを社会生活に活かそうとする態度，さらにこれからの社会の発展などについて考えようとする態度の育成が求められている。問いに対して自分なりの考えを持ち，皆で予想を出し合って話し合う問題解決的な学習や，価値判断の伴う議論をする活動を取り入れることで，児童が身近な社会的事物や事象に対して問題意識を持ち，多くの人と対話し，主体的に価値判断していく社会科の学習に取り組んでいきたい。また，「価値判断力」の育成は，「社会的な見方や考え方」との関りが深いことも，テーマに設定した理由の１つである。「社会的な見方や考え方」には，「立場が異なればいろいろな解釈ができる」という意味を含むとされている。物事は常に多面的で，さまざまなものの見方や考え方が併存している。視点や立場が違えば，違う答えが生まれる。社会科は多様な『解釈』を許容し，多様であることに『価値』を見出す教科であると言われている。本実践では社会に見られる課題を把握し議論を重ねることで，「価値判断力」の育成をねらいとしたい。

（３）テーマに迫るための手だて

①教材開発

一つ目の「児童の思考を大切にした教材開発」とは，児童の思考から生まれる疑問であったり，思考をゆさぶったりするような事象を教材として取り上げることで，

児童の興味関心意欲を喚起していく。社会科では，学ぼうとしている題材が自分たちの生活や経験と少しでも関係していると感じなければ，児童が主体的に学ぶことは難しい教科であると言われる。つまり，児童が社会的事象を「自分事」として感じることができるかどうかが，教材化において大切な点であると考える。そのため，本実践では，少しでも社会的事象と児童との距離を近づけ，思考を促すために３つの手段をとった。

Ⅰ　様々な方への取材（インタビューや FAX，電話），書籍の内容，ゲストティーチャーの話，CM，新聞，現地踏査してきた写真などを教材化すること。

Ⅱ　教材化の中で，座間市内の地域教材を取り上げること。

Ⅲ　教材化し児童に提示する際，教材と教材とのずれ，教材と児童の予想や認識とのずれ，数量に対する驚きなどを活かすこと。

特にⅢについては,「なぜだろう？」,「どうやって？」「どうしたらいいのだろう？」というような問題意識，疑問，葛藤を持つことを大切にする。そういった問題意識が,「知りたい」,「解決したい」,「話し合いたい」という思いにつながるように思う。児童が疑問を持つよう，教師が児童の思考を予測しておき，それまでの学習過程で計画的・意図的な発問や教材提示をしていく。

②社会的な見方・考え方

現行の学習指導要領においては,「社会的な見方や考え方」を,

> 社会的事象を比較・関連付け・総合して見たり考えたり，社会的事象を空間的，時間的に理解したり，公正に判断したり多面的にとらえたりできるようにすることが大切である。そのためには，児童一人一人が社会的事象を具体的に観察，調査したり，地図や地球儀，統計，年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり，調べたことや考えたことを表現したりできるように，問題解決的な学習や体験的な

であると書かれている。「社会的な見方や考え方」を養うための方策は記述されているが，そのような学習方法によって養われる「見方や考え方」とは何か，その定義が明確に示されていない。

一方，新「小学校学習指導要領解説　社会編」では,

> ○ 小学校社会科における見方・考え方を「社会的事象の見方・考え方」とし，社会的事象の特色や意味などを考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法」であり,「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けた

と,「社会的な見方・考え方」についてより明確に解釈している。（小学校段階においては「社会的事象の見方・考え方」と表記されている。）つまり,「社会的な見方・考え方」の「見方」とは「視点」,「考え方」とは「方法」であるとされる。思考力，判断力，表現力を育成する学習過程の中に位置づけ説明された。また,「視点」とは「位置や空間的な広がり,時期や時間の経過,事象や人々の相互関係などに着目すること」であり,「方法」とは「社会的事象を比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」だとされる。なお，視点についてはこれらの３つ以外にも，多角的（複数の立場・様々な人の立場）など，多様にあることに留意しなけ

ればならない。

ここまでを整理すると，「社会的な見方や考え方」では明確な定義がなく，「追求の視点や方法」であると考えられたり，解釈が混在したりしていた。それは「社会的な見方・考え方」になったことで明確に定義づけされた。その定義とは「見方・考え方」＝「視点と方法」であり，追及の仕方，方法に焦点を当てた手段である。なお，明確に定義付けされたが，「見方や考え方」=「追求の視点と方法」という解釈から大きく変わってはいない。また，島根大学教授である加藤寿朗氏は，

> ある視点に注目しながら社会的事象を見いだし，比較・分類，総合したり，関連付けたりすることが「社会的事象の見方・考え方」であり，それを用いて考察・構想する学習が「社会的事象の見方・考え方」を働かせる学習ということができます。それは，問いとその答えである知識を，「視点と方法」を用いながら，関連付けていく学習活動ととらえることもできます。視点に基づいた問いの設定とその追及･解決という学習活動は，

と説明し，視点に基づいてどのような問いを設定するのかで，獲得する知識も変わる。そのため，本実践では，以下のような発問を意識して授業を構想した。

| 問い | 何のための問いか | 学習活動を通して習得すること | 学習の成果として獲得する知識 |
|---|---|---|---|
| どのようになっているのか？ | 社会的事象を見出すための問い<br>「社会を知る」ための問い | 社会の知り方 | 社会的事象の状況・事実に関する事実的な知識 |
| なぜか？<br>特色は何か？ | 社会事象間の関係や特色などを考える問い<br>「社会をわかる」ための問い | 社会の分かり方 | 概念的な知識 |
| どうしたらよいか？ | 社会に関わるための問い | 社会の関わり方 | 価値的・判断的な知識 |

③価値判断力

「価値判断力」の育成に重点を置いた授業の特徴は，価値の対立する二つの立場を子どもに提示し，いずれの立場を支持するかを，子どもに判断させるところにあるとされる。そのような価値の対立を引き起こす教材をつくる方法と発問は，

Ⅰ　大人でも価値を判断することが容易ではない，社会的事象（具体的な事実）を教材として選定すること。

Ⅱ　そのような社会的事象がもつ『光と影』の部分を，子どもたち自身で見つけることができるように，資料を加工すること。

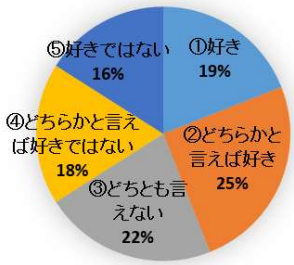
であるとされている。社会的事象を多角的な視点に立って見つめると，様々な価値観があることを児童は理解すると思う。ある事象と，ある立場の人々の思いとの間には対立が起こることもある。どちらかに偏った考え方をするのではなく，両方の思いを理解しながらも価値判断をするバランスが重要であると考える。児童には，既習内容や，収集した情報をもとにして，「よりよい社会」をイメージさせる。価値が対立する状況で，「よりよい社会」をつくっていくために判断したことを，本

実践では「価値判断」としたい。第一次では，海外にも生産拠点があるものの，現在，そして今後も国内（座間市）での生産を大事に続ける「D社」と，国内に一ヶ所の工場はあるが生産のほとんどを海外の拠点で行っている「N社（本社が座間市）」を教材化し，「これからの自動車部品の生産のあり方」について対立価値を生み出す。第三次の「カーシェアリング普及による自動車の国内生産台数の減少」も，これからの自動車産業の構造を大きく変える可能性のある事象であると思う。保有台数削減による環境への負荷を低減することと，自動車関連産業を守っていくこととに対立価値を生み出す。価値判断を伴う議論をする際には，社会的事象（事実）をきちんと理解するだけでなく，その事象をいろいろな角度から見つめ，様々な立場の人々の思いまで感じ取ることを大切にしたい。児童一人ひとりは，共感的な立場，相対的な立場，第三者的な立場など様々な立場に立つことが考えられるが，自分とは異なる立場の人の存在や裏側にある思いまで感じ取れるようにしたい。同じ問題についてでも，視点や立場を変えると多様な意見があることを知ることは，多様な考えを持つ他者が存在する社会のしくみを理解するうえで大切であると思う。価値判断場面の伴う社会的事象を取り上げることは，社会的な見方・考え方を養うだけでなく，「対話的な学び」の実現にもつながるのではないかと思う。

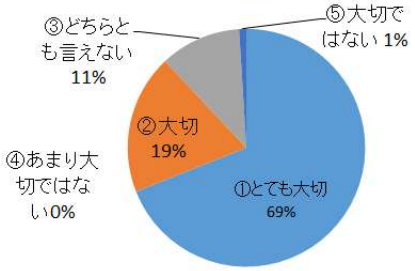
## 3　児童の実態

本学級の児童に，事前にアンケートを実施してきた。質問①で分かるように，年度はじめの調査では，社会科に対して「好き」,「どちらでもない」,「好きではない」と答える児童がバランスよく分散していた。しかし，質問②の結果のように，「社会科が大人になってから役立つか」ということについては，多くの児童が「役立つ」と認識していた。その結果から考察できることは，社会科で学習することが自分の身の周りの生活と密接に関わっており，教科の重要性は認識しつつも，覚えることが多いという印象があったのではないかと思う。第１回目のアンケートを実施した時期は，５年生になったばかりで日本の国土について学習していた。他教科に比べ，「社会科が好きではない」と感じる子が多かった原因としては，知識として覚える社会科になってしまったことが原因であると考える。児童にとって，三，四年生までは地域から学ぶこと，あるいは地域と交流することが社会であったかもしれないが，五年生になって自分たちの生活とは遠く離れたことを学習している気持ちであったのかもしれない。

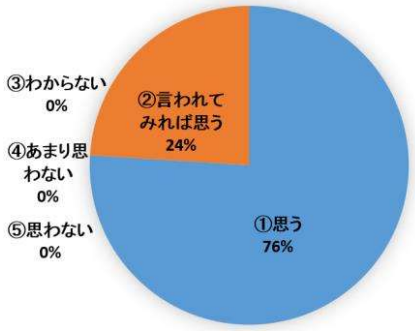
質問①　「社会は好きですか？」



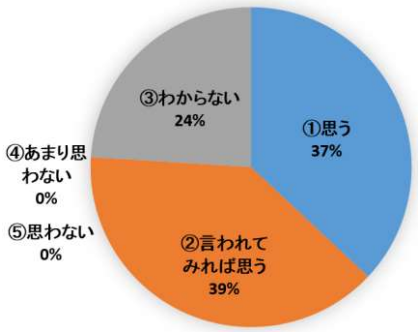

質問②　「社会科は，大人になって生活していくうえで，大切だと思いますか？」



質問③　「自分たちの生活と，社会科はつながっていると思うか。」（社会参画意識）




質問④　「自分は社会の一員という意識はあるか？」（社会参画意識）




## 4　授業実践

### （１）単元名　「守っていこう，日本の自動車産業と技術力」

### （２）単元指導計画

| 次 | 時 | ねらい | 関 | 思 | 技 | 知 | 評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 自動車の精密部品と自動車販売店に勤務する方へのインタビューから，自動車がどのようにつくられているのか予想することができる。 | | ○ | | | 思自動車の精密部品と自動車販売店に勤務する方へのインタビューから，自動車がどのようにつくられているのか予想することができている。（ノート・発言） |
| | 2・3 | 自動車ができるまでの工程や働く人たちの作業の様子を調べ，生産に込められた人々の工夫や努力，思いなどまとめることができる。 | | | ○ | | 技自動車づくりがラインの工夫や分業の仕組みなどによって，効率的に進められていることについて整理してまとめている。（ワークシート・発言） |
| | 4 | 自動車の輸送の経路や方法など物流の仕組みを調べ，交通網の広がりや自動車の価格に含まれる様々な費用について理解する。 | | | | ○ | 知自動車の輸送の経路や方法など物流の仕組みを調べ，交通網の広がりや自動車の価格に含まれる様々な費用について理解している。（ノート・発言） |
| | 5 | 自動車関連工場が，組立工場の周辺で輸送に便利な場所に分布していることを読み取ることができる。 | | | ○ | | 技自動車関連工場が，組立工場の周辺で輸送に便利な場所に分布していることを読み取ることができている。（ノート・発言） |
| | 6 | 座間市に拠点を置く自動車関連工場（D社）の様子から，優れた技術力と生産や出荷における工夫・努力について理解することができる。 | | | | ○ | 知関連工場では，利益を生み出しながらも効率よく生産･出荷するために，また品質を保つために，さまざまな工夫や努力をしていることについて理解している。（ノート・発言） |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 7 | 座間市に拠点を置く自動車関連工場（N社）の方の話を聞き，優れた技術力と生産や出荷における工夫・努力についてD社と比較しながら理解することができる。 | | | | ○ | 知 座間市に拠点を置く自動車関連工場（N社）の方の話を聞き，優れた技術力と生産や出荷における工夫・努力についてD社と比較しながら理解することができている。（ノート） |
| | 8 | 自動車部品を海外で生産することが増えていることについて話し合い，日本の技術力を生かした自動車部品の生産のあり方について判断し，多角的に考えることができる。 | | ○ | | | 思 自動車部品を海外で生産することが増えていることについて話し合い，日本の技術力を生かした自動車部品の生産のあり方について判断し，多角的に考えることができている。（ノート・発言） |
| 2 | 9 | 自動車会社のCMを見比べ，自動車会社が環境に配慮した車や安全性能に力を入れて多様な車を開発していることを理解することができる。 | | | | ○ | 知 自動車会社のCMを見比べることで，自動車会社が多様な車を開発し，環境に配慮した車や安全性能に力を入れて展開していることを理解している。（ノート・発言） |
| | 10 | インタビューして収集した資料をテーマに沿って整理･分類することで，自動車が社会の変化や消費者の需要に応えるようにして開発されていることに気づくことができる。 | | ○ | | | 思 自動車が社会の変化や消費者の需要に応えるようにして開発されていることに気づくことができている。（ノート・発言） |
| | 11 | 統計資料やグラフ，自動車メーカーに勤める販売員の方のインタビューから，交通事故による死亡者が減少傾向にある理由について理解することができる。 | | | | ○ | 知 統計資料やグラフ，自動車メーカーに勤める販売員の方のインタビューから，交通事故による死亡者が減少傾向にある理由について理解することができている。（ノート・発言） |
| | 12 | 自動車会社が，社会の変化や時代の先を見据え，安全な社会を目指して研究と開発に長い年月をかけていることを理解できる。 | | | | ○ | 知 自動車会社が，社会の変化や時代の先を見据え，安全な社会を目指して研究と開発に長い年月をかけていることを理解している。（ノート・発言） |
| 3 | 13 | 「カーシェアリング」とは何かについて知り，今後の自動車づくりのあり方について資料を探し，考えを持つことができる。 | | ○ | | | 思 「カーシェアリング」の良い点や心配な点などについて調べたり資料を集めたりして，考えを持つことができている。（ノート） |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 14 | 今後の自動車づくりのあり方について,環境に配慮することや技術力を活かすことをふまえて価値判断し,多角的に考えることがきる。 | | ○ | | | 思今後の自動車づくりのあり方について，環境に配慮することや技術力を活かすことをふまえて価値判断し，多角的に考えることができている。（ノート・発言） |
| | 15 | 自動車産業を取り巻く課題を踏まえ，日本の技術力と産業，そして環境を守るために，自分たちができることを考えることができる。 | ○ | | | | 関自動車産業取り巻く課題を踏まえ，日本の技術力と産業，そして環境を守るために，自分たちができることを考えることができる。（ノート・発言） |
| | 16 | 自動車産業取り巻く課題を踏まえ，日本の技術力と産業，そして環境を守るために,これからの車づくりについて自動車会社への提案を考えることができる。 | | ○ | | | 思自動車産業取り巻く課題を踏まえ，産業を守るために，これからの車づくりについて自動車会社への提案を考えることができている。（ノート・発言） |

（３）　授業の様子

教材

子どもたちの思考

子どもたちの思考
（捉えた意味・解釈）

研究テーマに関わる

○数字＝○時目

発　　問

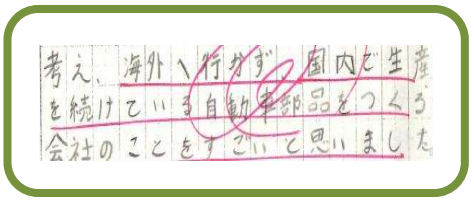
第一次⑥⑦　T 自動車部品を作る会社は，**どのような**工夫や努力をしているのだろう。

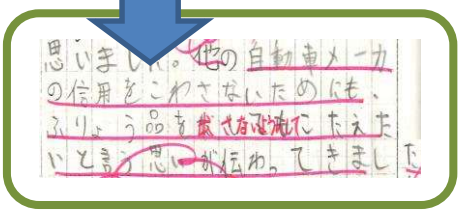
地域教材

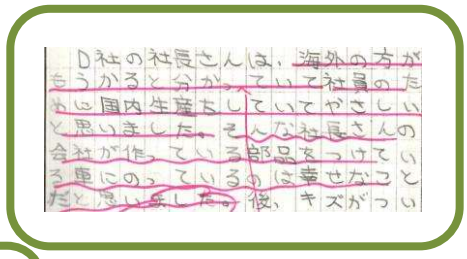
社会的な見方・考え方

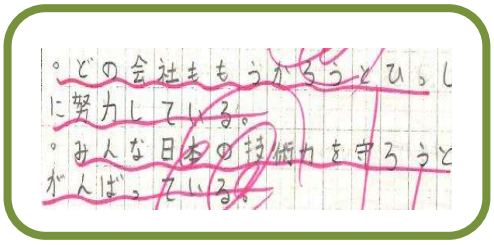
座間市内にある自動車関連工場をさがし，D 社と N 社の協力を得ることができ，教材化できた。まず扱ったのは、メッキ処理された樹脂部品を製造している D 社である。近年、自動車メーカーからの値下げ要請のある中、品質を保ちながら国内生産を続けてる。かつてあった大和市の工場が古くなった際に、”今いる従業員のことを考えて、国内で生き残る”という社長の考えのもと、数年前に座間市に新しい工場を建てた。D 社へは直接工場に赴き，自動車部品をお借りして教材化した。

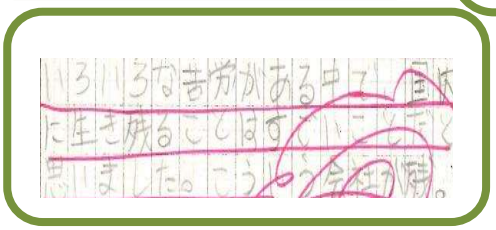
座間市にある自動車部品を生産する会社「D 社」の方の話から



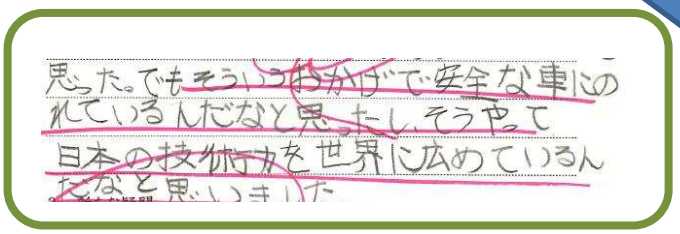



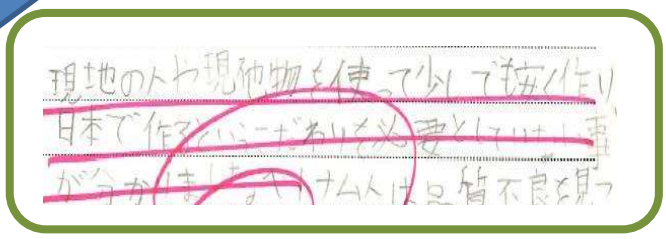



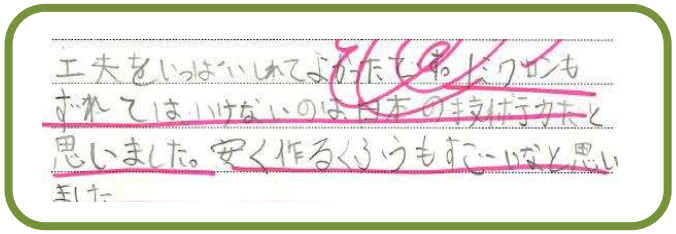



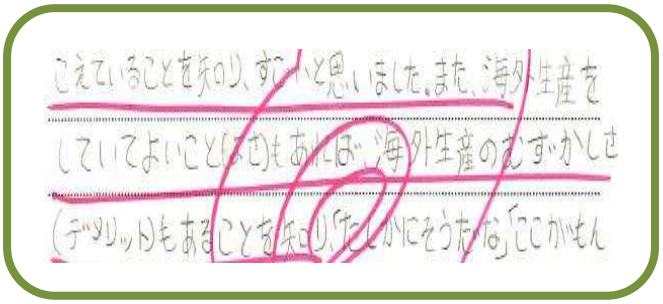

次に、D 社と比較をさせるため、N 社を取材し教材化した。N 社は、１０００分の１ｍｍの誤差も許されないような精密部品を製造している。自動車メーカーからの値下げ要請と、品質の良さにこたえるために、人件費が安く一生懸命な人の多いベトナムを中心に生産している会社である。N 社はゲストティーチャーとしてお越しいただいて教材化した。

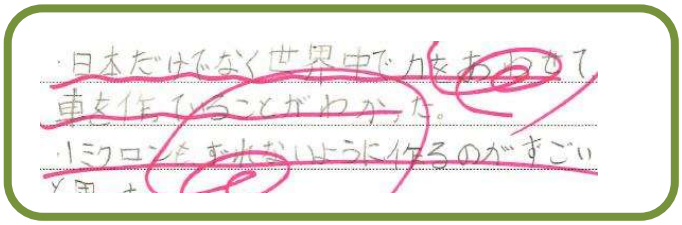
座間市にある自動車部品を生産する会社「N 社」の方の話から（ゲストティーチャー・取材）

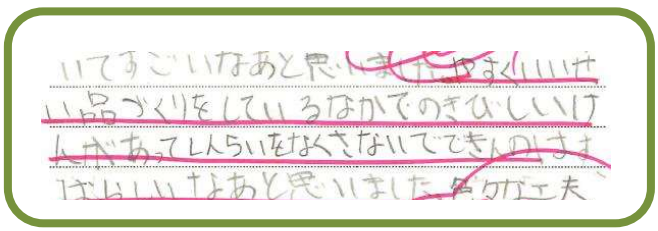



工夫をいっぱいしてよかったと思いました。ドワガンもすれてはいけないのは日本の技術力だと思いました。安く作るくふうもすごいなと思い知った

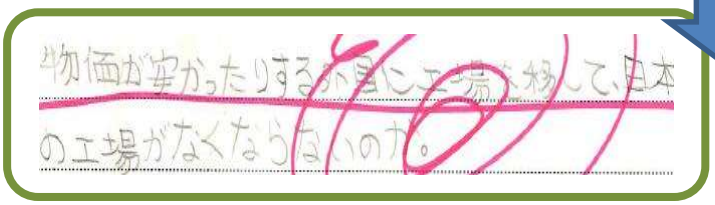

こえていることを知り、すごいと思いました。また、海外生産をしていてよいことばかりもあれば、海外生産のむずかしさ（デメリット）もあることを知りました。たしかにそうだな「ここがもん

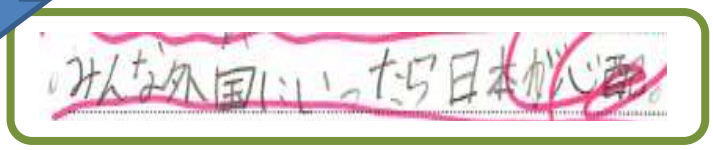

・日本だけでなく世界中で力をあわせて車を作っていることがわかった。
・1ミクロンもずれないように作るのがすごい


いてすごいなあと思いました。やっぱいいせいい品づくりをしているなかでのきびしいけんがあってしんらいをなくさないでできるのはすごいなあと思いました。自分が工夫

二社の生産のあり方を比較することで，部品を生産するうえでの苦労，メリットやデメリットが浮き彫りになった。児童にとって身近な座間市内の工場を教材化し，教材（D社）と教材（N社）にズレがあることを利用して，価値判断の授業へつなげることができた。

教材（D社）と教材（N社）とのズレ


物価が安かったりするから国に工場を移して日本の工場がなくならないのか。


みんな外国にいったら日本が心配。

価値判断力

⑧　現在は海外で自動車部品を作る会社が多いようだけど，これからも海外での生産を増や**していくべきでしょうか**。

| ＜よい＞ | ＜心配だ＞ |
| --- | --- |
| ・値下げ要請があるのだから仕方ない。<br>・日本で生産するのは大変になってきているからしかたない。<br>・消費者のわたしたちは安く車を買うことができる。<br>・日本だけでつくると，人件費が高いから車の値段が高くなる。<br>・世界に広まる。<br>・生産は現地の人，日本は技術の進化させればいい。<br>・国内の産業がおとろえないよう，設計や開発は国内で行っている。<br>・自動車工場も世界各国にあるのだから，効率がいい。<br>・会社なのだから，もうからないとやっていけない。<br>・安く安定してつくれるのだから。 | ・工場が減る。なくなる。<br>・日本で働いている人の仕事がなくなる。わたしたちの仕事がなくなる。<br>・自動車は日本の技術力のかたまり！<br>・日本のブランド，メイドインジャパンを守れるのか。<br>・日本のせっかくの技術が・・・。技術がうばわれる？流れてしまう。<br>・受け継ぐ人がいなくなる。<br>・農業や水産業のように，工業もおとろえる。自動車工業も，なにもかもおとろえる。<br>・輸入ばかりにたよることになる。<br>・海外だって人件費が高くなってきているらしい。<br>・直接話すことが難しいと言っている。<br>・ベトナムでは技術力が定着しないらしいから，品質が心配。<br>・世界から信頼されている日本車だけど，部品を輸入して日本車 |

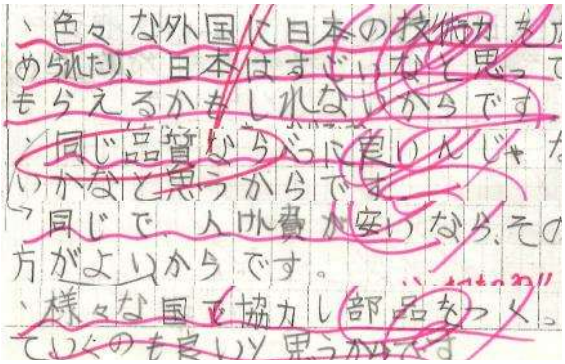
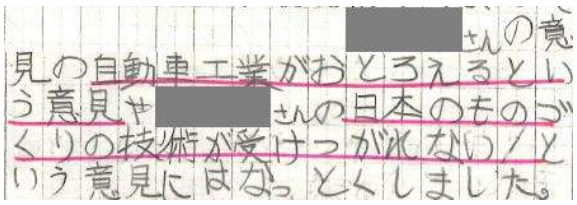
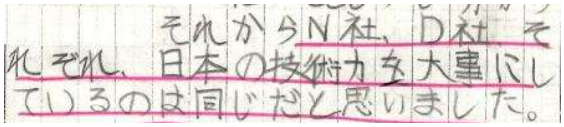
写真１　Ｄ社，Ｎ社，私たち（消費者），日本，外国など，立場に分けて板書

比較から共通点を見出し，今後の解決

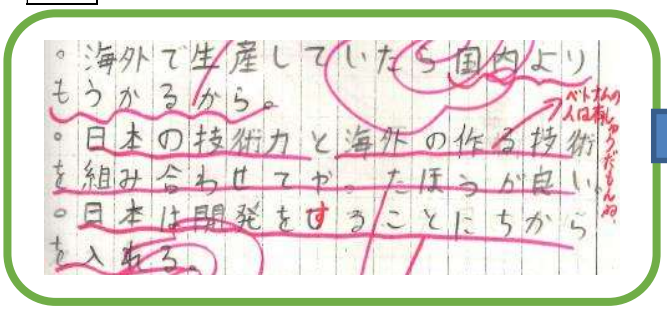
写真２　⑦時の導入時

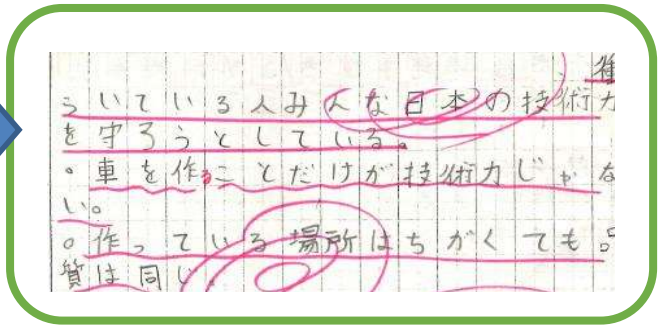
写真３　⑧時の終了時

児童の意見の変容

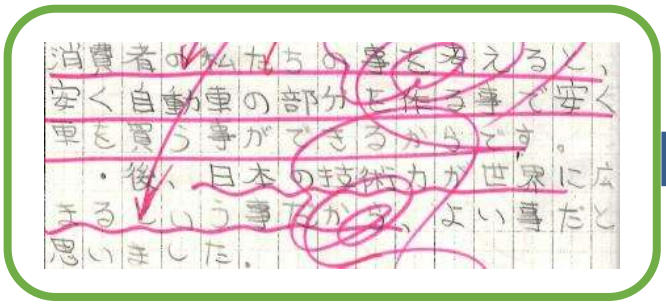
| ⑦時（話し合う前） | ⑧時（話し合った後） |
|---|---|
| A児 少し良い（②）　----------→ | どちらとも言えない（②と③の間） |
|  |   |

B児　少し良い（②）　----------→　どちらとも言えない（②と③の間）

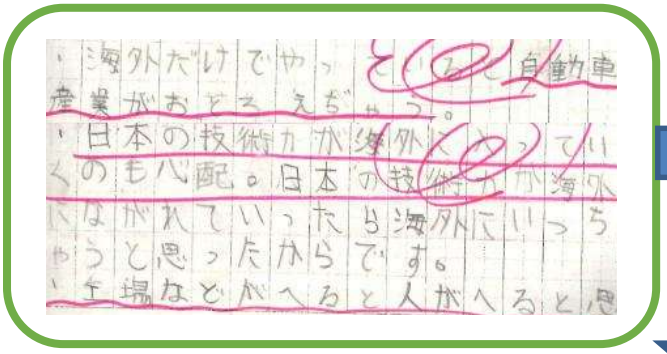


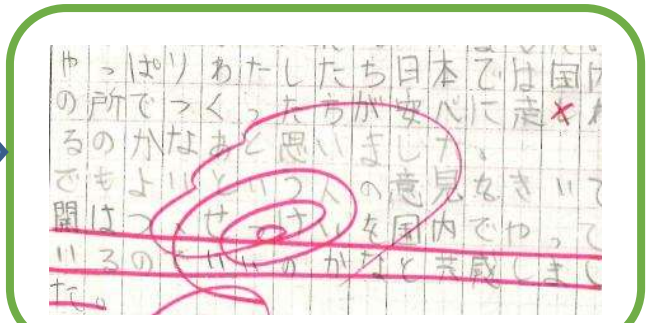




C児　少し良い（②）　----------→　どちらとも言えない（②と③の間）



D児　少し心配（③）　----------→　どちらとも言えない（②と③の間）




価値的・判断的な知識の獲得（「社会の関わり方」

写真２・３で，ネームプレートで示した児童の位置を見てもわかるように，話し合う前は判断がはっきりと分かれていた。おそらく，少ない情報で判断していたり，インスピレーションで判断していたりする子も多くいたように思う。しかし，写真３を見ると，話し合いを終えた後には振れ幅が小さくなった。それは，話し合うことで多くの児童が社会事象の「光」と「影」の部分を知り，多面的，総合的にとらえ，一人よがりな判断でなはなく公正に判断することできるようになったからであると考える。価値判断となると立場をはっきりとさせるイメージがあるが，話し合うことで社会事象の全体像をとらえることができるのであれば，最終的に中立的な立場に意見が偏るのもよいのではないかと思う。価値判断力の育成とは，情報を収集して偏った見方や判断をするのではなく，いろいろな角度から社会的事象を見つめ，いろいろな立場の意見を受け入れることも大事なのではないかと思った。そのため，「立場が異なればいろいろな解釈ができる」という意味で，「社会的な見方や考え方」が児童に培われたからではないかと思う。社会に見られる課題に対して解決の方法や方策を判断するとい

う活動を通して，社会の関わり方に関する「見方・考え方」が養われたのではないかと思う。

また，「立場が異なればいろいろな解釈ができる」ということをつかませるため，本時では立場にわけて板書をした。最初は多くの児童が一方の立場から考えるにとどまっていたが，最後には，ある児童が「生産するのは海外でも，技術がおとろえないよう設計開発は日本で行っている。日本の技術力を活かしているのは同じだ。」という点に着目し，両方の立場の比較から共通点を見つけ，解決の糸口をさぐることができた。その発言を受け，多くの児童の立ち位置や考え方が変容したのだと思う。

社会的な見方・考え方

第二次⑨

消費者に購入してもらうために，自動車会社は**どのような**車を開発しているのだろう。

（自動車会社各社の CM を見て気づいたこと）

・荷物が多く積める
・窓が広い。
・なめらかな走り。
・天井が高い車。
・コンパクトな車もある。（軽！）

快適・便利な車

自動で運転する

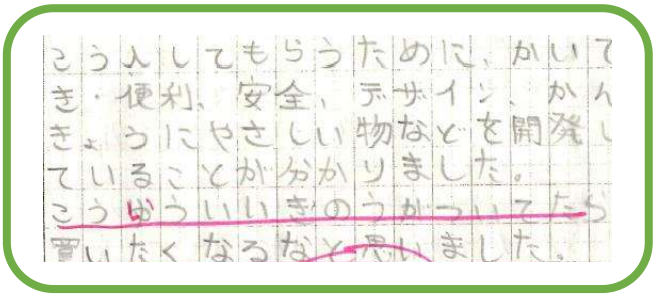
・自動ブレーキ。
・危険をお知らせしてくれる車。
・安全，安心な車。
・事故や衝突を減らす車。

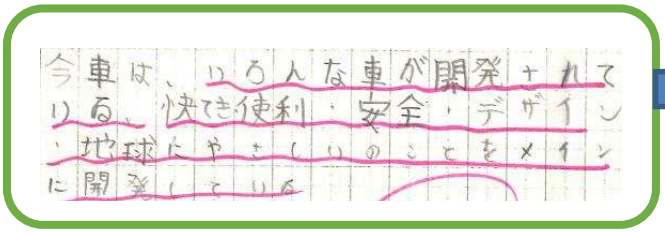
安全な車

・見た目がよいもの。
・かっこいいもの。

デザイン

・・ガソリンを使わない車。
・排気ガスが少ない車。
・太陽光で走る車。
・エコな車。
・充電で走る車。（電気自動車）
・ハイブリッド車。
（電気とガソリンで走る車）
→環境にやさしい車
・低燃費な車。（ガソリンをあまり使わない車）


こうんしてもらうために、かいてき・便利、安全、デザイン、かんきょうにやさしい物などを開発していることが分かりました。
こうゆういきのうがついてたら買いたくなるなと思いました。


今車は、いろんな車が開発されている、快てき便利・安全・デザイン・地球にやさしいのことをメインに開発している

社会的事象の状況・事実に関する事実的な知識の獲得（「社会の知り方」の習得）

自動車会社のパンフレットや折り込み広告ではなく，CM を活用したのには理由がある。CM は，動画で視覚的に訴えることが出来るからである。また，限られた短い

時間でそのものの良さを最大限にアピールしているからである。そして，児童が何気なく目にしているものもあり，CM を見ることは生活の一部になっている児童もいる。自動車会社が時代や消費者の願いに応えるような開発をしていることをとらえるためには，最適な教材になると考えた。そこで CM を教材化し，児童に自動車会社各社のＣＭを８つ見せた。その際，「消費者に購入してもらうために，どのような車を開発しているのだろう？」と発問から，「社会事象（自動車の開発）と私たちの相互関係」の視点を持たせた。それぞれのＣＭを比較し，共通点を見つけて分類することで，大きく４つにグループ分けをすることができた。ここでは，CM から情報の読み取りを通して，比較，分類し，「社会的事象の状況・事実に関する事実的な知識」
を獲得し，「社会の知り方がわかる」という「見方や考え方」が養われたのではないかと思う。

社会的な見方・考え方

⑪

T　自動車が増え続けていくと，どんな問題が起こると考えられる？

・渋滞！
・交通事故！
・地球温暖化！（環境

T　自動車の数はどうなっている？

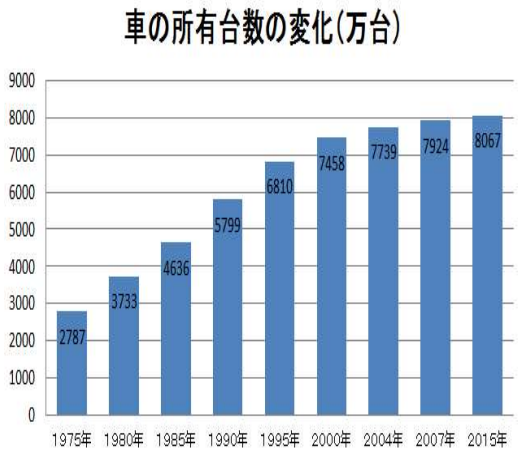
・年々増えて

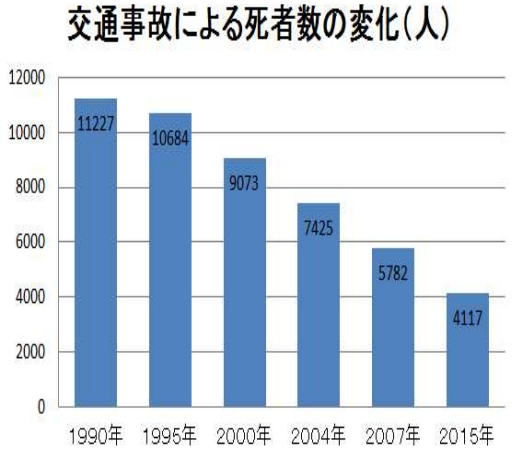
T　じゃあ，交通事故の死者数はどうなっていると思う？

・増えてるはず！
・いや，減ってるんじゃない？

T　自動車の保有台数は増えているのに，自動車事故による死者が減少しているのは**なぜだろう？**

交通事故発生状況の推移（警視庁），交通安全白書（内閣府）の資料から
※「朝日ジュニア学習年間」（朝日新聞出版　2017）のデータをもとに作成



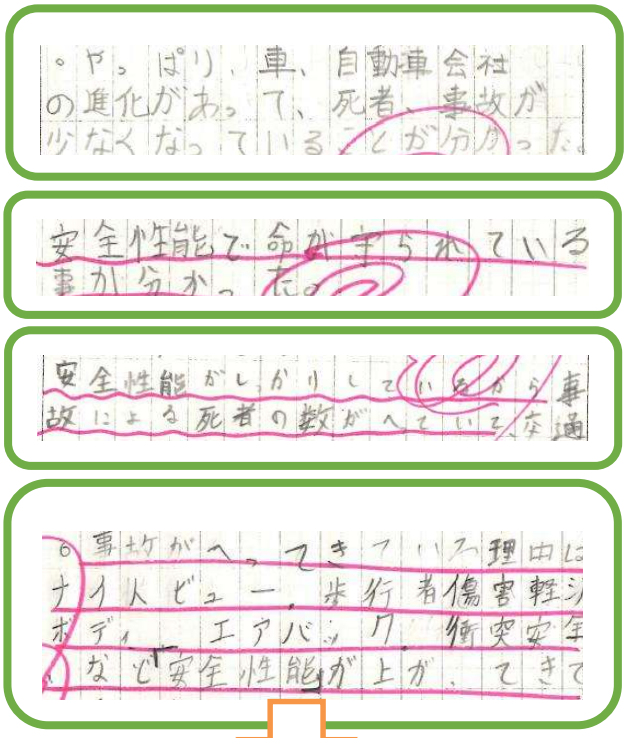

教材と児童の予想や認識とのずれ

○車が進化したからじゃないか。
・最近は自動ブレーキとか，ハンドルを操作してくれる車があるからじゃないか。
・危険を察知してくれる機能があるからじゃないか。
・エアバッグがあるから。
○ドライバーが安全運転を心がけているからじゃないか。
○交通ルールを守る人が増えたからじゃないか。
○車に乗る高齢者が減ったんじゃないか。
○車は持っているけど，乗る機会がへっているんじゃないか。
○「車ばなれ」が進んでいるのではないか。
○信号や歩道橋など，道路が整備されたからではないか。
○免許や法律がきびしくなっているからではないか。

自動車メーカーの販売店に勤める方（Ｙさん）

近年，高齢者の方の，アクセルとブレーキをふみ間ちがえるなどの事故が増えています。自動車の販売を手がける立場として，大事なお客様が事故に合われるのは心配です。また，自動車会社として，車が売れなくなってきていることも深刻な問題です。車が売れなくなってきている原因として考えられることは，まず一つ目に「少子高齢化」があげられます。かつては「クルマはあこがれ」だった世代がお年寄りになり，多くの人が車にのらなくなります。二つ目に，「若者の車ばなれ」が進み，若者が車にあまり乗らなかったり興味を持たなかったりするからです。そして三つ目に，車が長持ちするようになっているからです。昔に比べ，車は性能がよくなってきており，現在の車は１０年乗っても，１０万ｋｍ走っても，こわれないようになってきています。年々，安全機能や最新機能が次々に加わるようになってきていることもあるでしょう。そのため，車の値段も昔より高くなってきています。

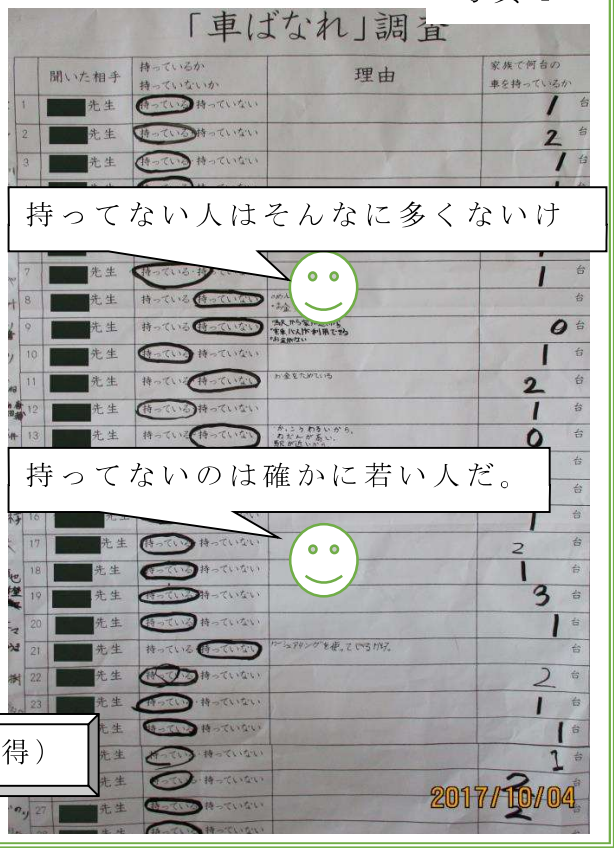
安全性能の資料（社会科資料集から）




概念的な知識の獲得（「社会の分かり方」の習得）

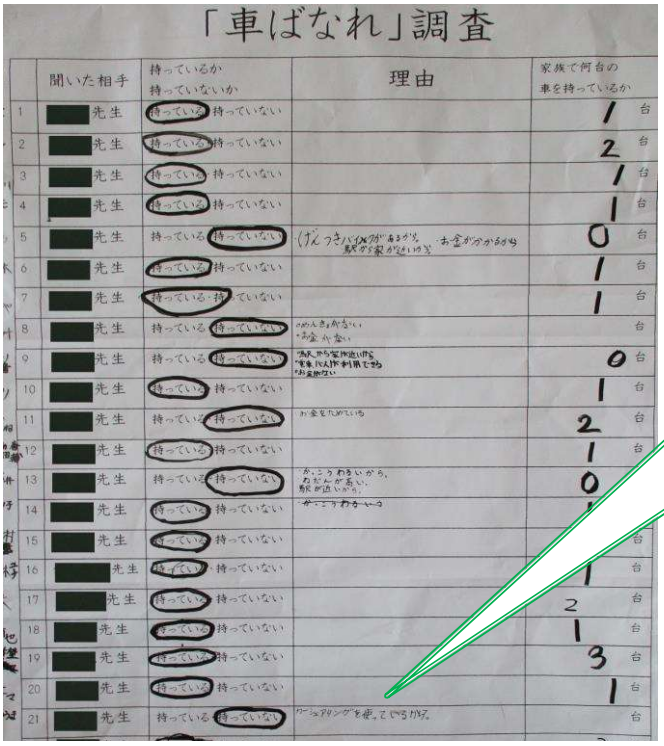
「車ばなれ」調査の結果
（児童によるインタビュー）

写真４



本時では，車の安全性能の向上，日本の技術力を活かした開発に視点を持たせるために，書籍の統計資料を教材化した。児童の予想と教材とのズレを利用して，社会的事象に迫った。「なぜだろう。」という発問により，事象相互の関係や意味（交通事故による死者が減少している要因），考えることを通して，「概念的な知識」を獲得し，社会の分かり方が分かるという「見方や考え方」の育成を図った。児童は様々な角度から予想することができた。様々な要因が考えられるが，最後には，車の性能に関する資料を配布し，「安全のための性能」という共通点を見出した。そして自動車会社の開発努力や自動車の安全性能の向上に焦点化させることができた。また，９・１０時の日本の技術力を活かした開発と関連づけて考えることができていた。

「車ばなれ」調査の結果
（児童によるインタビュー）



⑬T　マイカーを持たなくても気軽に車を利用できること，環境にやさしいことなどをよさとして，「カーシェアリング」が広まっています。これからも広めて**いくべきでしょうか。**

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の方の話（取材）

教材（自動車生産）と教材（自動車の共有化）とのズレ → 価値判断

第二回目の価値判断の授業では，カーシェアリング（車の共有化）を教材化した。きっかけは，児童が「車ばなれ調査」をする中で，車を持たない人が「カーシェアリングを利用しているから」と答えたことがきっかけとなった。また，車の共有化という社会的事象が，立場によって価値観の分かれる教材であるため，児童は真剣に話し

合いに臨むことができた。学校付近にも利用できるステーションがあったので，実際の写真と，カーシェアリングに詳しい財団の方へのインタビューを教材化した。

⑭　T これからの自動車づくりについて考えよう。

＜よい＞

私たち

自動車が減るから・・・

・家庭から出る二酸化炭素のうち，５分の１が車から。その二酸化炭素を減らすことができる。
・渋滞もへる。
・大気汚染を防ぐことができるから。
・人間によくない排気ガスや $CO_2$ を減らせるから。
・いろいろな環境問題をもたらした車を減らせる。
・交通量も減るので，事故も減る。
・光化学スモッグも減るし，環境にもやさしいからいい。
・マイカーを手放すので，電車や自転車，歩くなど，環境にやさしい移動手段にかわる。
・電気自動車は高い。充電スタンドはまだまだ少ないという課題がある。

若者

・高いという理由で車を買わないけど，安く乗ることができるから使いやすい。
・安いから車離れの対策になると思う。
・今の時代にあっていて使いやすい。
・車に興味を持つようになるかもしない！

＜心配だ＞

自動車会社

・Y さんは，「車が売れない」と困っているのにもっと売れなくなる。
・日本の技術力でなんとか環境にやさしい車を開発している。
・私たちのことを考え，様々な車を開発している。
・もうからない。車が売れない。
・工場も技術もなくなるのでは。そして，会社が海外へ行ってしまうのでは？
・今は環境にいい車が開発されている。
・電気自動車を広めればいい。
・ハイブリッドカーの普及が進んでいる。
・今は太陽光発電の車もある。
・プラグインハイブリッド，排出するのは「水」だけという，究極のエコカー「燃料電池車」がある。

関連工場

・約５５０万人もの人が，車に関係することで働いている！困るのではないか。

私たち

・エコカーを使えばいい。
・マイカーは便利。シェアでは不便。

若者

・もっと車離れが進むかも。

日本

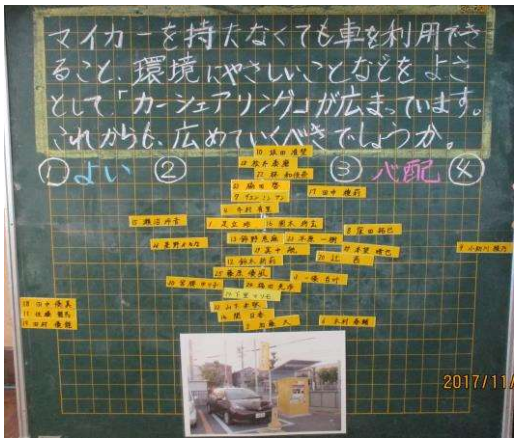
・自動車産業（工業）がおとろえる。

私たち，若者，自動車会社，関連工場など，立場に分けて板書（多角的）

写真６

写真７　⑬時の導入時

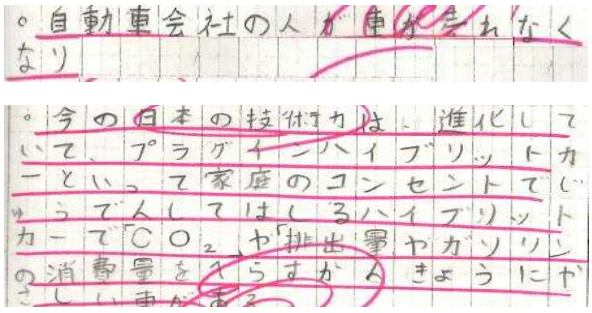
写真８　⑭時の終了時

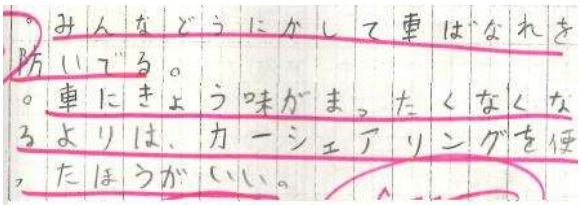



児童の意見の変容

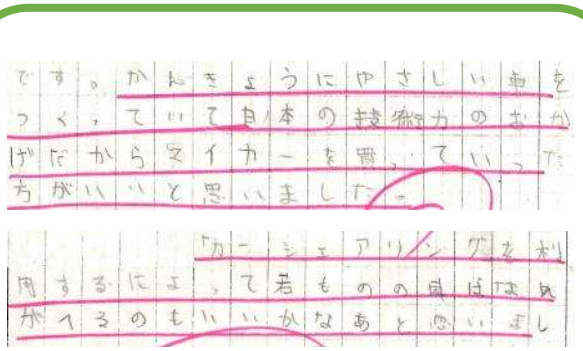
| ⑦時（話し合う前） | ⑧時（話し合った後） |
|---|---|
| E児　少し良い（②）----------→ | どちらとも言えない（②と③の間） |
| かんきょうが良くなるということは、人にとっても地球にとっても良いことだから。<br>わかい人も、カーシェアリングが人気になったら、車にきょうみ | わたしの意見は少し変わって良いけどほんの少しだけ心配です。今までは、自分の立場で考えていたけど、自動車会社などの立場になって考えるとかんきょうにやさしい車や電気自動車を広めていくという意見にもなっとくしました。 |

F 児　少し心配（③）　---------→　どちらとも言えない（②と③の間）




G 児　少し心配（③）---------→　どちらとも言えない（②と③の間）




価値的・判断的な知識の獲得（「社会の関わり方」

第二回目の価値判断の実践でも第一回と同様，ネームプレートで示した児童の立ち位置を見ると，話し合う前は判断がはっきりと分かれていた。しかし第一回目と同様に，話し合いを終えた後には，振れ幅が小さくなった。それはやはり，話し合うことで多くの児童が社会事象の「光」と「影」の部分を知り，多面的，総合的にとらえ，一人よがりな判断でなはなく公正に判断することできるようになったからであると考える。いろいろな人の意見を聞き入れ，社会的事象を多面的に見ることができたうえでの価値判断であると思う。特に E 児の意見を見ると、最初は自分の立場で判断していましたが、話し合いを通して自動車会社の立場に立って考えるようになり、判断が変わりました。

F 児については、シェアリングはあまりよくないと判断していましたが、話し合いをすることで、車離れを防ぐ一つの手段にもなるのではないかと判断が変わりました。

話し合いでは，これまでの学習の総まとめにふさわしい内容となった。新しく提示したインタビュー記事に加え，第一次で学習してきた関連工場で働く人々の思い，第二次で学習してきた日本の技術力を活かした開発について，自分たちが調査してきた「若者の車ばなれ調査」など，いろいろな事実を関連させたり総合したりして考えることができていた。そして様々な人の立場に立って考えることができた。社会的な見方・考え方が培われていることを実感した。第一時同様，社会に見られる課題に対して解決の方法や方策を判断するという活動を通して，社会の関わり方に関する方法的

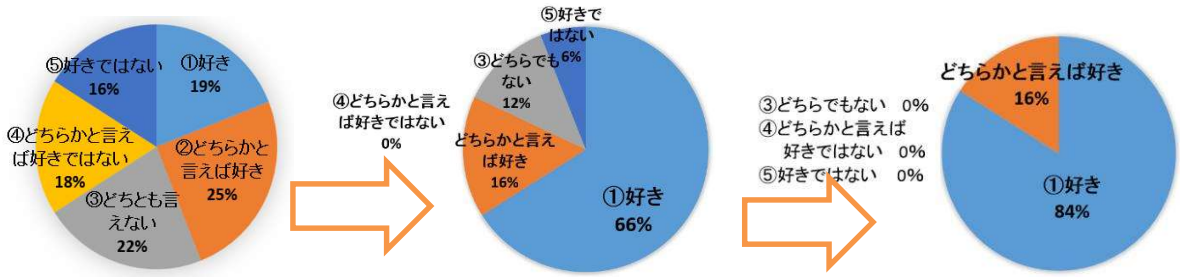
な「見方・考え方」が養われたのではないかと思う。

また，授業の最後に書いたふりかえりでは，「わたしたちにも何かできることはないかなぁと思いました。」書く児童がいた。そのことが，自動車会社への提案へと結びついた。

4　研究成果

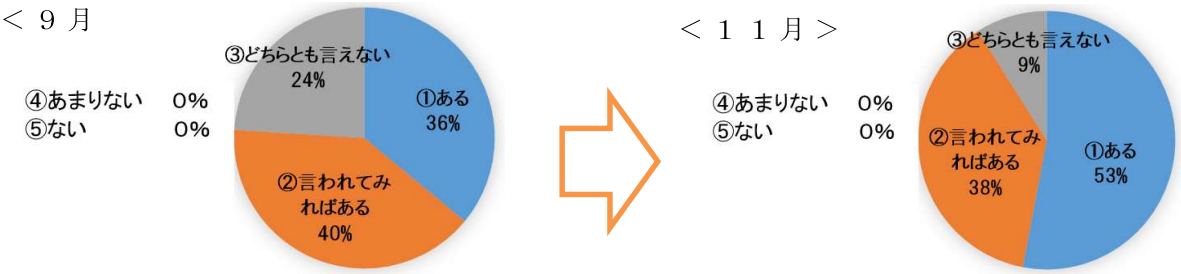
① 社会は好きですか？

＜４月＞　＜７月＞　＜１１月＞




② 「自分は社会の一員だ」という意識はありますか。

＜９月　＜１１月＞




＜教材化について＞

・教材化，提示の仕方，そして発問の仕方など，教師の意図的な働きかけによって，児童と社会的事象との距離は近くなり，児童は意欲的に学習することができた。

・教材化に力を入れたことで，児童は社会科に大きな興味関心を示した。だからこそ，社会的な見方・考え方や価値判断力も育成されたのではないかと思う。

・「足の速い教科」と言われる社会科において，教科書の内容と現在とにズレを感じる時がある。自ら教材化していくことで，社会の”今”がわかり，児童に”現在”のことを学ばせることができる。教科書の内容と自分自身での教材化したものを織り交ぜながら単元を構成できるとよい。

・学習した社会的事象を街中で児童が発見することが多くなった。社会で見られる課題を教材化して取り上げたからこそ，身の周りの社会的事象を学びと結びつける児童，「教室を離れても学びを続ける児童」が育ったように思う。

＜社会的な見方・考え方について＞

・社会的事象を見出すための「視点」と「方法」，そして「発問」を考え，授業を構想することに焦点化していくことができた。

・「なぜ」という問いに迫っていくとき，児童は資料を見比べたり，既習の知識と関連付けて考えたりするなどの力が養われていった。

・「どのように」という発問により，情報収集，読み取りといった活動を通して，「社会の知り方」が習得できた。

・「なぜだろう」という発問により，事象相互の関係や意味，特色を考えることを通して，「社会のわかり方」が習得できた。
・「どうしたらよいか。(～していくべきでしょうか。)」というような発問により，社会に見られる課題に対して解決の方法や方策を判断するという活動を通して，社会の関わり方に関する方法的な「見方や考え方」が養われた。

＜価値判断力について＞
・価値判断に迫る授業では，既習の知識から総合的に考える子が多く見られた。そのことからも，児童に社会的な見方や考え方が身についてきたことが伺えた。
・話し合うことで多くの児童が社会事象の「光」と「影」の部分を知り，多面的，総合的にとらえ，一人よがりな判断でなはなく公正に判断することできるようになった。多くの児童が社会的事象の全体像をとらえることができるようになった。
・自動車工業だけでなく，「農業」，「水産業」，「林業」，「公害」においても同様に教材化した内容を授業で取り上げ，単元を構想した。一つの側面や，一つの立場から社会的事象を見たり，自分よがりに判断をしたりするのではなく，みんなで話し合い，学び合うことで深い学びになったように思う。「社会への関わり方」を判断することにおいて大きく成長した。
＜その他＞
・自校周辺は地域教材に乏しいが，市内に広げていくと，田んぼがあったり，工業地帯（町工場）があったりするなど，様々な地域教材や人との出会いがあった。地域教材を発掘し，活用していくことは児童の学びに大きく影響すると改めて感じた。

５　今後の課題
・取材では，事前の依頼の電話，日程調整，実際にインタビュー，インタビュー内容の加工と，教材化に向けての準備は時間と労力がかかった。
・特に資料の加工において，難しい語句を児童にわかりやすい言葉になおすための「言葉選び」に苦労した。
・一単元の中に学習内容を盛り込みすぎたので，内容を精選してもよかった。

６　おわりに
社会科において，知識の習得は大切である。習得した知識を活用して，社会への関わり方を判断するからである。しかし，この単元を学習した子どもたちは，全員が自動車工場で働くわけではないし，必ずしも自動車産業に携わる仕事に就くわけでもない。また，すぐにでも自動車を購入するわけでもない。そんな子どもたちに，何を学ばせることができたか。本単元の学習を通して，「日本の技術力を活かして，質の高い工業製品が生産されていること。」，そして，「産業がおとろえることのないよう，発展のために様々な立場の人が重要な役割を果たしていること。」を意識して単元を構想し，子どもたちも学ぶことができたように思う。また，新学習指導要領において，社会科の５年生の目標として

（３）　社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，**我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う**。

と示されている。ある児童は,「テレビで自動車会社に関するニュースが流れていると，自然と見るようになった。」と発言していた。農業や水産業のときも同様の発言をする児童がいた。学習をしたことで，教室を離れても関心を示したり，自分の生活台に立って考えたりしていた。学習後の感想で,「自動車産業と日本の技術を私たちが守ってきいきたい。」と数人の児童が書いていたことは，これからの日本の産業の継承・発展を担う人材が育ったのではないかと思う。そして日本の技術力に誇りを持てたことは，国民としての「自覚」が持てたのではないかと思う。そんな子どもがクラスの中で育ったことは，本実践を行ってきた大きな成果であると思う。将来にわたって社会にかかわろうとする意識，姿勢をも育むことにつながったのではないかと考える。５年生の「産業」という分野において,「社会科好き」の子を育てることは大切であると思う。

７　本実践研究のために，教材として使用した書籍，雑誌，インターネットサイト


・「学研　まんがでよくわかるシリーズ１２３　ぶつからないクルマのひみつ」
（学研プラス　2016）
・「データと地図で見る日本の産業④　工業①」（ポプラ社　2014）
・「ポプラディア情報館　日本の工業」（ポプラ社　2008）
・生産・環境・福祉　日本の自動車工業②　世界とつながる自動車」(岩崎書店　2015)
・「生産・環境・福祉　日本の自動車工業③　命を守る安全技術」(岩崎書店　2015)
・「朝日ジュニア学習年間」（朝日新聞出版　2017）
・SUBARU OFFICIAL WEBSITE（https://www.subaru.jp/brand/technology/story/eyesight.html）
「開発ストーリー アイサイト編 先進の運転支援システムは，いかにして生まれたのか」（2010年７月掲載）
・「アップル，グーグルが自動車産業を乗っとる日」（桃田健史著　洋泉社 2014）
・「Wedge　June 2016 Vol.28 No.6　自動車産業が壊れる日」(株式会社ウェッジ　2016)


８　理論研究のために，引用・参考した文献，インターネットサイト


・「小学校学習指導要領解説　社会編」（東洋館出版　2008）
・文部科学省ホームページより　小学校学習指導要領解説　社会編
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017_3_1.pdf
・「小学校社会科　よりよい学習指導案からよりよい授業実践へ
－社会に参画する授業づくりの実践技術と理論－」(波巖著　東洋館出版社 2010)
・「社会参画と社会科教育の想像」(唐木清志・西村公孝・藤原孝章著　学文社　2010)
・「澤井陽介の社会科の授業デザイン」（澤井陽介著　東洋館出版　2015）
・「子どもの追求力を高める　教材＆発問モデル」
（小学校社会科授業づくり研究会編著　明治図書　2017）
・「見方・考え方　［社会編］『見方・考え方』を働かせる真の授業の姿とは？」
（澤井陽介　加藤寿朗編）